

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

| 都道府県名 | 熊本県 | 市町村名 | 八代市 | 組織名 | 八代市教育委員会 学校教育課 |
|--------------|---|------|-----|-----|----------------|
| 派遣日 | 令和4年7月20日(水曜日) 9:00~12:00 (1) 開会・挨拶 9:00~9:10 (2) 講話・質疑応答 9:10~11:10 (3) 情報交換 11:20~12:00 (4) 閉会 12:00 | | | | |
| 実施方法 | ※いずれかに○をつけてください。 派遣 / 遠隔 | | | | |
| 派遣場所 | 講師の勤務地【オンラインでの実施】 | | | | |
| アドバイザー氏名 | 築樋 博子 先生(豊橋市教育委員会外国人児童生徒教育相談員) | | | | |
| 相談者 | 八代市日本語指導員(会計年度任用職員)3名 及び 八代市教育委員会指導主事1名 | | | | |
| 相談内容 | <p>昨年度、本事業のアドバイザーによる日本語指導員の研修を1学期に実施したことにより、日本語指導員の指導力を高めることができた。また、普段の指導において抱えていた悩みもアドバイザーの先生に相談することができ、解決のヒントを多く得ることができた。しかし、本市の日本語指導員は指導経験が浅く、指導の中で多くの課題や悩み等を抱えているため、その解決のための知識や方策等を専門家(アドバイザー)から学ぶ機会が必要である。</p> <p>今年度、本市において日本語指導員の研修のための予算を確保することができなかつたため、ぜひ本事業を活用して日本語指導員の指導力を高め、外国にルーツをもち日本語指導を必要とする児童生徒がよりよい指導を受けられる体制を整えたい。</p> | | | | |
| 派遣者からの指導助言内容 | <p>【講座内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 外国人の子供の受入れについて <ul style="list-style-type: none"> 受入れ初期のポイント(学校での転入・編入手続き) 保護者への情報提供が不可欠(日本の小学校に入学する前に) 外国人児童・保護者向け動画(文部科学省「かすたねっと」の活用) 日本語の5つのプログラム(サバイバル日本語、日本語の基礎、技能別日本語、教科と日本語の統合学習、教科の補習) 発達段階による言語習得の特徴(小学生・前半、小学生・後半、中学生) 生活適応+サバイバル日本語の指導 <ul style="list-style-type: none"> サバイバル日本語(学習項目の選び方、教え方) サバイバル日本語の様々な活動例(遊びの加わり方、時間割の尋ね方) サバイバル日本語の教材・会話集(文部省「にほんごをまなぼう」など) 日本語基礎の指導 <ul style="list-style-type: none"> 学習内容(文字・発音、語彙、文型)及び活動(学習場面の設定)について 文字指導の活動例(日々の生活や在籍学級の活動に必要な語彙) 非漢字圏出身児童生徒の漢字学習における困り感 「読み」や「書き」に困難がある児童生徒に対するアセスメント・指導・支援 ひらがな・カタカナの指導に使えるアプリの紹介(ICTの活用) 文型指導のテキストと教材を選ぶ視点(高学年の児童及び中学生向け) 日本語学習の進捗表例(豊橋市教育委員会外国人児童生徒教育資料HPより) 教科と日本語の統合学習(算数で使う日本語を指導できるテキストの紹介) 技能別日本語の指導 <ul style="list-style-type: none"> 指導のポイント(読み書きに重点を置いた活動、学習のプロセスを重視した指導) 活動例(短冊作文、表を読んで情報を得る活動など) 日本語指導のコース設計例 <ul style="list-style-type: none"> 「個別の指導計画」「児童生徒に関する記録」(いくつかの事例をとおして) | | | | |

| | |
|---------------------------|--|
| <p>相談後の方針の変化、今後の取組方針等</p> | <p>1 受講者の研修後の感想（分かったこと・学んだことなど）</p> <ul style="list-style-type: none">・指導員として、児童に早く日本語を習得させ、授業に参加できるようにすることは言うまでもないが、まずは新しい学校生活に馴染んでもらい、あまり焦らずにその児童のペースで進めていきたいと思った。これからも、児童との信頼関係を大切に、指導方法の工夫・改善に努めていきたい。・児童にとって言葉が分からない要因として、外国から来たということだけでなく、特別支援教育の視点から支援が必要なことも含まれていることを知って驚いた。教材もたくさん紹介していただいたので、どれを使おうか悩むよりも、色々な教材をまず使ってみて日本語指導に生かしていきたいと思った。・日本で生まれ、日本で育った子供たちの日本語力を判断することがとても難しく感じていた。特に、低学年の児童は、判断に迷うことが多く悩んでいたが、アドバイザーの先生に相談することができ安心した。言葉の習得には時間がかかるということを念頭に置き、長い目で見ていくことが大切だと改めて認識した。 <p>2 受講者が今後実践しようと思ったこと</p> <ul style="list-style-type: none">・研修資料（冊子）の様々な指導例を参考に、担当する児童・生徒の日本語力を高める指導方法を実践したい。・特別支援学級での指導方法や教材なども学び、日本語指導の参考にしたい。・平易な日本語に書き直されたリライト教材について勉強し、今後の授業に活用したい。また、特別支援教育の視点（支援が必要な児童生徒への対応）も学びたい。 |
|---------------------------|--|